

第 16 回地方独立行政法人公立甲賀病院評価委員会 会議録

日 時：令和 8 年（2026 年）2 月 16 日（月）13 時 30 分から 14 時 30 分

場 所：公立甲賀病院 診療棟 2 階 講堂

出席者：

委 員 福島委員長、石井委員、浅田委員、三木委員、草野委員

病院組合 岩永管理者、松浦副管理者、東峰会計管理者、

圖司病院組合担当次長、川崎病院組合担当局長、玉木事務局長

公立甲賀病院 辻川理事長兼院長、佐井理事兼事務部長、古川理事兼看護部長、中尾事務
次長

陪席者：

甲賀市 山本総務部長、北田健康福祉部長

湖南市 坂田総務部長、奥村健康福祉部長

公立甲賀病院 中村人事課長、久米財務課長、久保管財課長、久米診療支援課長

森口経営戦略室長、田中クオリティマネジメントセンター事務課長

開 会

【委員長】

本日の出席委員は 5 名で、当評価委員会条例第 6 条第 2 項の規定により定足数に達しており、よって、第 16 回地方独立行政法人公立甲賀病院評価委員会を開催する。

1. 公立甲賀病院組合管理者のあいさつ

2. 地方独立行政法人甲賀病院理事長のあいさつ

3. 議題

「地方独立行政法人公立甲賀病院令和 7 年度上半期の進捗状況について」

【委員長】

次第 3. 地方独立行政法人公立甲賀病院令和 7 年度上半期の進捗状況についてを議題とする。

病院事務部から説明の後、各委員より以下のとおり意見や質問があった。

(委員)

DMAT は、指定医療機関として指定されているか。

(病院)

はい。

(委員)

関連して今、何人くらいか。

(病院)

現在、常勤は3名。

(委員)

見ている限り、この細かい改善を継続されるとしても、中々トントンになる感じは見られない。今まで大きな変化というのは、休床したベッドを動かされ収入も上がったが経費も上がった。元年の病床利用率74.5で、現在も75でほぼ変わらずということで、結局、人口構成で計画が立てられると思うが、キャパが大きいのかなと感じる。そう簡単に出来ないと思うが、ベッドを減らすのもあるのかなと、そうすると利用率が85%に行けば顕著な改善があるかなと思ったり、ベッドを減らすことによって人員配置も減る。隣接医療圏に患者さんが流れているし、隣接医療圏とか隣接病院との調整もしたほうがいいのではないかと感じる。

(病院)

病院経営の重要な指標の一つは、病床利用率、それが70%台で医業収支が黒になることは不可能で、これを上げるべく85%を目標ににやっている。ただ、ベッドを413床、元に戻すと急性期の病床が27床増えるけれども、看護師が足りなくなって回すのが不可能ということになり、残念ながら現在の386で運用するのが一番良いと考えている。

それから、386床で85%以上の病床稼働を保つのが一番良いが、この1月2月は、多い時は90%ぐらいまで病床稼働が上がり、冬場の感染症とか心筋梗塞や脳卒中患者さんが一気に増えるので、その辺では一番良い稼働で回っているという状況になっている。したがって上半期の4月、5月、6月になると、そういった患者さんがだいぶ減り、年間前半の稼働が下がる、これが非常に課題だと分かっているので、この辺の稼働を上げるためには、どういう工夫をすれば良いか、職員一同、特に幹部は、新たな政策となる方法を試みようとしているところだ。

そして、甲賀圏域内で3割ぐらいの患者さんが大津や湖南圏域へ行かれているが、当然こちらが近い方もおられるし、こちらで十分機能できない医療、高度な医療ということもあるが、もう少し当院で同等の医療ができるのであれば、当院の良さを分かっていたら、圏域内で医療が完結できる割合を増やしていく、これは今後も努力して続けていかなければいけないし、まだ患者数に伸びしろがある。そして春夏の稼働を上げれば、経常でトントンという数字が見えてくるのかなと考えている。

(委員)

病床利用率に対して細かく対応し、特に急性期疾患のところは、きちっとまとめられて着実に数字を積み上げているので問題ないと思う。

(委員)

医療・介護業界は、公定価格、診療報酬の面で大変苦勞している。去年の11月28日に全国医学部長、病院長会議において私立、公立病院も含め診療報酬改定プラス11%を要求するという声明を出している。今回3%余り、それ以外に医療介護パッケージで、この3月までに補助金が出る状況になっている。そういう状況でこれだけ経営を頑張っているということがよく分かった。給与費比率63.4%を令和元年度に比べて61.1%まで減らされ、努力をされたことに感服する。

(委員)

病床について、看護師の確保状況で病床数が決まっているという状況だったので、ちょっと心が痛むが、看護職を増やしていくのは厳しい状況で、人数を今の状態で維持していくしか道はないところで、定着支援をやっていただいているが、職員満足度で職員も患者も満足していただける状況を目指しておられるし、引き続き看護職は辞めないという職場を目指して進めていただきたいと思う。看護師を増やして病床数を増やすことは厳しいと思う。

(委員)

看護師が辞める理由の一つに子どもの教育とか母親が子どもを残して働きにくいということだが、院内の保育はあるか。

(病院)

ある。

(委員)

そこに預けている看護師は多いのか。

(病院)

保育園は30名の定員で、実際預けているのが15名。半分くらいというところ。

(病院)

413床の医療ニーズに応えられるかが一番なので、7対1を回していくには看護師がかなりきついという両方の意味があるのが一つ。

それから看護師の数を維持するために滋賀県、甲賀市、湖南市からも色いろな支援をいただいております、そのことも付け加えさせていただきたい。大津、草津、守山に比べたら甲賀市は、都会への志向の方が多く、その中で甲賀看護専門学校に入っただけの方をいかに多くしていくか、努力して看護学生40人定員を満たせるように頑張る、さらに他の大学を卒業

した人を甲賀市内の病院の中で働いていただく、その中の急性期として公立甲賀病院で働いていただく、さらに一旦看護師を辞められている人もリスクリング的なことをして、再び医療機関で働いていただく、当院だけでなく医療機関全てで協力し、看護師の支援、復職スキル等々を続けなければ維持すらも難しいという危機意識は持っているので、行政、各医療機関全て集まって議論を重ねながら、毎年、色いろなことをしているということを付け加えさせていただきます。

(病院)

当院では、院内保育所に看護師の子どもさんを中心とした預かりをしていたが、現在は、その職種も拡げている。昨今、自分で育児休業を取りたいという今の看護師の要望であったり家族構成等もあるかと思うが、出来るだけ保育所に預けて就業してほしいというのは、我々管理側の思いだ。今後も引き続き保育所の充実を努めご利用いただくようにしたいと思う。

(委員)

委託について、今、事務とか給食とか掃除を委託されている。掃除の方は早くから来られて掃除されている。両管理者に理解いただくよう申し上げているけれども、そういう方たちは遠くからは来れない。病院は片方から見ると医療機関だが、また片方から見ると重要な地元の産業でもある。地元の方を雇うということをご理解いただければと思う。多くの地元の人たちが働きにきていることも念頭に置いてほしい。

(委員)

38%の材料費率というのは、これは薬剤、診療材料費ということか。

(病院)

そうだ。

(委員)

材料費と給与費を合わせると85%ということになる。これが80を超えるとなかなか黒字にならないので、是非もう少し頑張っていただきたいと思う。

(病院)

努力を続けていく。

(委員)

滋賀県の甲賀地域は、医師少数区域スポットになっていて、滋賀県の中でも全国で下33%に入る少数区域。医師確保の面で医師少数区域の経験認定医師推進事業補助金というのがある。甲賀病院に勤められている医師に申請をするよう勧めているか。

(病院)

何人か希望を聞いてそれを出している。

(委員)

将来的に病院長になろうという方には、管理者の資格要件として入っている。だから研修なり、6ヶ月以上勤めたということで、後でも認定されるはずなので、是非、申請していただきたいと思う。地域の医師会も、この申請を出すようにさせてもらっている。

(委員)

診療報酬改定があり、甲賀病院は、どれくらい増収になるか。

(病院)

補正予算の分は最初にしたが、実際の3.09%プラスだけでいうと、診療報酬×103.9でしかしていないので、そこはわからない。

(委員)

データで当てはめると色いろと小技が効くかと思うので、ぜひ早めにされた方がいいと思う。

(委員)

外科的な手術料とか、その辺が上がる。外来医療はそれほどでもないけれども、入院医療はもうちょっと上がるはずだ。

(病院)

16日に最終、正確に出ると聞いていた。まだ漏れ出てくる数字、今日もニュースで出ているので当てはめていきたいと思う。

【委員長】

それでは本日予定されていた議題は以上だ。他に委員から特になければ閉会させていただきます。

4. 公立甲賀病院組合副管理者のあいさつ

<資料>

- ・令和7年度地方独立行政法人公立甲賀病院上半期事業報告書